

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270202460
法人名	医療法人社団 平世会
事業所名	グループホーム ひろた
所在地	〒859-3223 長崎県佐世保市広田1丁目4番7号 (電話) 0956-27-5711

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年12月18日	評価確定日	平成21年2月12日

## 【情報提供票より】(平成20年 4月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 1月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	14 人 常勤 12人, 非常勤 2人, 常勤換算 6.8人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨耐火 造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要( 4月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	8 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐世保中央病院・くりや内科医院・ななくま歯科医院・村上医院
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

今年のホームの目標を「変化」と掲げており、職員それぞれが確かな成長を遂げられ、管理者は手応えを感じている。5年目を迎える来年は、原点に立ち返る年とされ、現状に甘んじることなく邁進していきたいとされている。人生で数少ない貴重な体験や、あるいは危機を乗り越え、常に感謝の気持ちや謙虚さ、学ぶ姿勢を忘れず、向上している。管理者は職員を信頼し、職員は入居者との触れ合いの中できちんとその信頼に応えられている。それは、職員が異口同音に語られる言葉や表情で伝わってくる。人と人との関係に温もりを感じられるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題項目は、「地域とのつきあい」と「災害対策」であった。前者については、ホームに地域の方を招いての交流の機会を多く持たせ振り返られている。後者については、まず何が確実にできるかと議論した時に、緊急時の持ち出し品としての書類を完璧に整備しようという決定のもと、取り組まれている。さらに食料や飲料水等の生活必需品については今後の課題とされ、すでに検討が始まっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員が個々に自己評価票に記入し、従来管理者がまとめていたが、今回は介護主任が中心となり現場の力でまとめ上げている。職員それぞれが同じ気持ちで支援にあたっていたことを再認識することができ、団結力がより一層深められている。休職から復帰した職員がその成長ぶりに驚くほどであったとのことである。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	幅広い立場の方々で構成され、3ヶ月に1回開催されている。ホームからの事業報告や通知のほか、参加メンバーとの活発な意見交換がなされ、双方向的で有効な会議となっていることが、報告書からも確認できる。注目すべきは、ヒヤリハット、事故事例を包み隠すことなく会議の中で報告し再発防止に向けての検討が行われている点、また現場職員が交代で参加し記録を担当することで、責任を持ち自信にもつながり、意識も高められている点である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月発行される「こもれび通信」の他、家族が来訪された際に電話をかけるなど、随時報告もされている。また、口頭だけではなく、入居者個別にアルバムを作るなど、報告の仕方にも工夫が見られた。さらに、家族の意見や要望を真摯に受け止め、反映させたいという姿勢を持ち、日々努力しており、家族の状況や個々にあった形で傾聴できるよう配慮されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	今年は、ホームに地域の方を招いて交流する機会が多く持たせ振り返られていた。数々のボランティアや老人会の方々による歌や踊りなどの演芸披露や、夏祭りなどのホーム行事に地域の方を招待されたりと、地域交流の幅が広い。また、招くだけでなく、ホームから出かけて行き地域の方と挨拶を交わす関係も築けている。その効果が、ホームの知名度が上がったという実感があり、ホーム側からの声かけがとてもしやすくなったとのことである。

## 2. 評価結果 (詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の方も含めホームに係わるすべての関係において『感謝』の気持ちなしには成立しない。様々な場面に配慮できる『やさしい手』、そしてやさしさだけでなく専門性のある『確かな手』を差し伸べ、それぞれのペースに合わせ『共に歩み』たいという想いが込められた理念を掲げられている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム理念『感謝の心を忘れずに やさしい手 確かな手で共に歩みます』をホーム内に掲示し、パンフレットにも記載され、申し送り時に復唱している。理念の神髄が、職員のそれぞれの心に浸透している。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年は、ホームに地域の方を招いて交流する機会が多く持てたと振り返られていた。数々のボランティアや老人会の方々による歌や踊りなどの演芸披露や、夏祭りなどのホーム行事に地域の方を招待されたりと、地域交流の幅が広い。また、招くだけでなく、ホームから出かけて行き地域の方と挨拶を交わす関係も築けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員が個々に自己評価票に記入し、従来管理者がまとめていたが、今回は介護主任が中心となり現場の力でまとめてあげている。職員それぞれが同じ気持ちで支援にあたったことを再認識することができ、団結力がより一層深められている。休職から復帰した職員がその成長ぶりに驚くほどであったとのことである。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	幅広い立場の方々で構成され、3ヶ月に1回開催されている。ホームからの事業報告や通知のほか、参加メンバーとの活発な意見交換がなされ、双方向的で有効な会議となっていることが、報告書からも確認できる。注目すべき点は、ヒヤリハット、事故事例を包み隠すことなく会議の中で報告されたり、また現場職員が交代で参加することで、責任を持ち自信にもつながり、意識も高められている。		

グループホーム ひろた

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市の委託事業である高齢者支援センター業務を兼務されており、市との連携は密にとれている。いわば管理者がパイプ役となっており、介護現場で情報の共有に努め、市との協働関係が築けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行される「こもれば通信」に、行事や日常生活の様子などを写真を織り交ぜて掲載し、家族へ報告している。その他、家族が来訪された際や電話をかけるなど、随時報告もされている。また、口頭だけではなく、入居者個別にアルバムを作るなど、報告の仕方にも工夫が見られた。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望を真摯に受け止め、反映させたいという姿勢を持ち、努力している。家族の状況や個々にあった形で傾聴できるよう配慮されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を重視し、従来異動は行わなかったが、異動による効果もあるのでは、との提案が運営推進会議で出された。育児休暇中の職員の復帰を機に、経営者と職員とで十分に話し合いの場を持ち、熟慮の上でユニット間異動をされている。入居者や家族、運営推進会議でも説明をされ、入居者へのダメージはない。逆に功を奏し、職員の持ち味がさらに発揮され、プラスの効果が表れている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学び、知識を得ることで、自己の自信や安心感にもつながり、他者に対しても納得のいく説明ができるという意義を職員全員が心得ている。法人内外を問わず研修会には積極的に参加され、参加できずとも併設事業所も含めた研修報告書や各委員会からの情報や資料などを回覧し、情報の共有に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会のブロック会議に、管理者のみならず職員も参加され、研修会の受講や意見交換を行っている。同業者間で連絡が取りやすい関係も構築されており、質の向上につながっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談を受けた後、本人や家族によるホーム見学や介護主任による事前訪問を通して、意向を聴き状況把握を行う。必要に応じ、体験入居も可能である。入居後は、注意深く様子観察を行い、全職員で「ケア会議検討用紙」に気付きを記入し、アセスメント、介護計画へとつなぎ、徐々に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のホームでの生活が職員の生活の一部だと感じるほどに、協同生活が営まれている。職員は入居者から学ぶことが多く、入居者と寄り添うことに喜びを感じ、感謝している。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向が、アセスメント等の介護記録にびっしりと綴ってある。「書くことがいっぱい出てきます。」と語る職員の心中は、入居者への想いで溢れており、入居者の言葉や表現からその想いをくみ取る洞察力や観察力を感じることができる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者ごとに担当制をとっており、計画作成担当者はユニットごとに2名ずつ配置している。まずは全職員で「ケア会議事前シート」に記入し、これを基に各担当者がアセスメントを行い、「検証シート」で検証した後ケア会議を行い、介護計画を作成している。入居者のニーズを見極め、チーム力で支援していこうとする姿勢がある。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に沿った支援が実行できるよう「個人別現行ケアプラン一覧表」を作成するなど独自の工夫がある。「ケアプランチェック表」で日々チェックし、月末には担当者がコメントを記入される。3ヶ月に1回モニタリングを行い、現状に即した計画作成を追求し続けている。状況変化や無理のある計画については、随時話し合いのもと変更されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設事業所の利用者との気軽な交流や、通所リハビリでのリハビリ指導、支援センターによる広範囲な相談、母体医療機関を通じての医療連携など、法人全体によるバックアップが充実している。また、家族ができない時の通院受診等の外出支援も、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は、母体である医療機関が入居者全員のかかりつけ医となっているが、入居前に必ず確認を行い、本人、家族の意向に沿ってかかりつけ医の継続受診を支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療機関の併設という利点を最大限に活かし、かかりつけ医の判断のもと、本人、家族の意向に沿った支援を目指している。そのためにも、状況に合わせて話し合いの場を多く持ち、ホームで対応できないことは明確にした上で方針を決め、共有したいとしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの心情まで察した気配りが随所に現れ、言葉使いも丁寧で、やさしく声かけをされている場面を、訪問当日垣間見ることができた。記録等の個人情報についても、慎重に取り扱っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその人らしさを尊重し、常に追求し続けている。業務優先にならないよう、その日その時何を優先すべきかを見極めて支援している。それが故に、リスク等を考慮した際、どうしても入居者の希望に沿えなかった時に職員は心苦しさを感じられているようであった。		「これまで職員にゆとりがなかった部分は否めないが、全職員が揃いチーム力が高まってきている今だからこそ、入居者とゆっくり向かい合える時間を作っていきたい。」と語られていた。その取り組みに期待したい。

グループホーム ひろた

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べることに係わる献立作成から買い物、調理、下膳に至るまでを入居者と共に行うことで食の楽しみを共有されている。また、鍋を囲む日や行事の際は飲酒もありで、互いに酌み交わし、和気あいあいと舌鼓を打っている光景が目に見え、また、食卓では、料理の味の品評もされていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の身体レベル低下に伴い、また入居者の動線に合わせ、手すりを追加設置されている。一番風呂が好きな方、入浴の際に洗濯が習慣となっている方、ゆっくり長風呂の方と、個々のペースに合わせた支援を心がけている。拒否傾向にある方についてはその要因を探り、工夫することで入浴できている。無理強いすることなく、代替の支援をしたり、タイミングを見極め支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	商店街で包装用に使われている新聞紙を織ったエコバック作り、フロアのモップかけ、自宅に帰って土いじり、調理の下ごしらえの数々、と役割を尋ねただけで限りなくある。楽器演奏が得意な方は、訪問当日ハーモニカの音色を奏でられていた。生活歴や特技、趣味等を十分に引き出し、張り合いや喜びのある支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの商店街や「野菜と花のお店」、移動販売のパン屋等への買い物、公園周辺への散策、馴染みの美容室など、職員体制に無理が生じない範囲で支援している。時に新聞折り込みの広告を見て、欲しいものを買に出かけたり、個別にドライブに出かけたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中に施錠することはない。安全確保のため、死角になる場所にはセンサーや姿見を設置し、休憩等で職員が交代する際は、必ず入居者の所在確認を行うようにしている。外出傾向がある場合は、その前兆を職員は把握しており、一緒に寄り添っている。また、地域の方との顔なじみの関係が築けており、地域に見守られた環境にある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の合同消防訓練に留まらず、毎月ホーム内で想定を変え訓練を行い、災害対策の意識付けを強化されている。さらに、個人情報記録を持ち出しやすくファイリングし、緊急連絡先の携帯版を作成するなど、書類関係については完璧に整理されている。食料や飲料水等の生活必需品については今後の課題とされ、検討を始めている。		

グループホーム ひろた

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、専門的な観点からチェックしてもらいアドバイスを受けている。また個々にあった食事の好みや形態、量についても配慮され、臨機応変に代替等の工夫をしている。また食事姿勢が食欲に影響されることも考慮され、足台を置いたり、食器がずれていかない工夫が施された自作のトレーを置いたり、努力に余念がない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのソファではテレビを観たりして寛ぐことができ、座敷のこたつでは作業をしたり語り合ったりして過ごすことができる。エレベーター前に日当たりのよい空間があり、椅子に腰掛け、街の風景を眺めながら日光浴もできる。あちらこちらに生けられた花々により季節感や癒しを感じる。様々な場面に対応できる空間づくりができています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドと寝具類はホームからの提供で、クローゼットが設置されている他はすべて、入居者の愛用品や馴染みの物に囲まれている。家族や職員の想いが込められた品々が飾られていたり、本人の生活のしやすさを重視した物の配置がなされていた。		